

会 報 わかくさの風

No.17

社 会 福 祉 法 人 戸 田 わ か く さ 会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

⇒5月12日に3事業所合同で行われた家族会の様子。



地域に発信する戸田わかくさ会を目指して始動
〜公開研修、戸田わかくさ会祭り動き出す〜

今、地域を抜きには、福祉は語れない。事業所は地域の人にとって有効な社会資源であることが求められている。福祉は行政、社会福祉協議会を含む社会福祉法人などの民間事業所、事業主体、利用者、家族、地域住民の5つの輪

います。豊かな地域づくりの一端を担えればという思いで、30年度は、公開研修を9月1日、戸田市文化会館でみぬま福祉会の総合施設長松本哲さんをお招きして、「だれもが幸せに暮らせるまちづくり」と題して、開催します。さらに12月8日には、第3回戸田わかくさ会祭りを開催します。お祭りの内容は企画中です。楽しみにしていただければと思います。この様な取り組みを通して、福祉豊かな地域づくりに貢献できればと準備しておりますので、ご期待下さい。また、皆様方のご支援を是非、お願い申し上げます。

平成30年7月
統括施設長 竹嶋 紘

やさしさと笑顔(3) 〜人は関係の中で「働き」をする〜

わかくさの敷地の端に、職員用・利用者用の喫煙スペースがある。始業前や昼休み、数人の職員が喫煙するくつろぎの場所ともなっている。また、利用者の中にも愛煙家がいて、職員と紫煙をなびかせ、一緒に談笑する場所でもある。前日、雨が降っていたため、喫煙場所のベンチは濡れている。拭く

(和)がしっかりと連携、
協働すること
で、地域は変容
するといわれて

ものも傍にないため、職員は立ちながら喫煙していると、ある利用者がそばに来て、職員の喫煙している姿をじっと見ていた。しばらくして、彼はその場を離れた。間もなく彼がその場所に戻ってきた。彼の手には雑巾がしっかりと握られている。彼はその雑巾で、濡れているベンチを拭きだした。そして、彼は職員に向かって、手で座るように促し、職員は彼の誘いのまま、ベンチに座った。職員はゆったりとした気持ちで、たばこを深く吸い、空を少し見上げ、至福の表情である。職員は口々に、「ありがとう」「ありがとうございませう」という。その言葉に反応するように、彼は笑顔で満足げな表情をしている。特に言語による会話は無いが、職員は彼が行った行為に素直に感謝する。そして、彼自身の「やった感」(達成感と「喜ばれている、人の役に立った」(有存在感)を感じているように思えた。そこには職員と利用者の深い交流がある。利用者が思わぬ力を発揮することがある。おそらく、利用者同士、職員との関係性、特に安定した関係のなかで、彼の内面の深いところで、「人と人の信頼」「人からの期待」などを、受けとめているのではないかとと思う。利用者と職員の間にある信頼感の深さが人の成長に影響する。信頼関係はそれぞれ人の成長には欠かせない栄養素である。職員にとっても、利用者の力は、自らの成長の糧になることは言うまでもない。

統括施設長 竹嶋 紘

成人を祝う会

平成30年1月14日(日)に戸田わかくさ会成人を祝う会を戸田市文化会館で行いました。当日は快晴でとても気持ちの良い天候に恵まれました。また、市長をはじめ来賓のみなさまに暖かく見守られる中で行われました。

人生の節目であり、立派な大人への一步となるよう、新成人を法人全体でお祝いすることで一体感を持つことも促進されます。また利用者のみなさんは式典に出席することにより事業所の自治会を中心に参加意識も高まる機会になっています。

今回の成人を祝う会は、4名の新成人を迎えて行われました。20歳を迎え、ご家族の皆様にとってもこの節目は大きな意味を持つものだと思います。会の中で、プロフィールと称して、生まれた時から今までの写真をまとめたものを映写しました。皆さん笑顔でとても良い表情が溢れていました。笑顔の裏には、いろいろなご苦労があったのかと思います。これから、ご本人、ご家族と共に、法人職員も一緒になって、大人へのさ

らなる一步をふみ出せるよう日々の支援に活かしていきたいと思えます。

最後に、新成人のみなさま、ご家族のみなさま、本当におめでとうございました。

(かがやき寺内)

合同入所式



新しい利用者が仲間入り

平成30年4月7日に合同入所式が執り行われました。今年度は、わかくさに2名の方が入所しました。

特別支援学校を卒業して、社会

人として第一歩を踏み出しました。当日は、来賓、わかくさ利用者、ゆうゆう及びかがやきの自治会長と利用者代表の皆様祝福されました。

当日は、たくさんの方にご臨席・祝辞を賜り、心地よい緊張感の中で式典を執り行うことが出来ました。

式典では…

新規利用者の紹介として、まだ数日しかたっていないかもしれませんが、作業等の映像をみなさんに見ていただきました。まだまだ緊張した様子ではありましたが、作業に取り組む様子やそれ以外の様子も見えていただきました。また、在籍者代表として、わかくさ自治会長から歓迎の言葉がありました。高等部を卒業し、生活が変わったばかりで、まだ戸惑いもあるかと心配しましたが、良い区切り・スタートとなったのではないのでしょうか。

最近の様子…

通所が始まり、3か月が過ぎました。4月には2人とも緊張した様子でしたが、今ではご自分の意思を伝えたり、他の利用者の方との関わりが増えてきていたり、

徐々にわかくさにも慣れてきています。ボール洗浄やゴミ袋納品など、様々なことに挑戦しながら作業や日中活動に取り組んでいます。

法人内の他の利用者のみなさんにとっても、合同入所式という式典に慣れてきたように感じます。参加した利用者の方たちは、式を始めた頃よりもその場の雰囲気慣れ、参加することへの余裕が感じられました。

頼もしい新しい利用者を迎え入れ、今後とも、わかくさでの仕事や生活を充実できるよう支援をしていきたいと思えます。

(わかくさ宮國)

ご家族より…

★少しずつ慣れてきているようです。学生時代の気分がまだ抜け切れませんが、末永く見守っていただけると助かります。本人が興味を持てる事があれば、自ら行動すると思いますので、いろいろなことに挑戦してもらえたらと思います。

★とても良い入所式だったと思います。利用者の皆さんもすぐくしつかりしてびっくりしました。本人には集中して仕事を進められるようになってほしいと思います。

各事業所の取り組み

わかくさ

継続は必ず力になる
〜野菜販売の活動を通じて〜

わかくさは、障害の重い軽いに拘らず「働くこと」、そして働くことを通じて「自分らしく地域で暮らす」ことを理念として大切にしております。野菜販売は、その理念の下始まった事業ですが、「生活介護」「就労継続支援B型」の両班の利用者達は自分にできる事を見つけ、それぞれの場面で作業として関わっております。

野菜を仕入れに行く利用者は、わずかな人数の中協力して堆肥や野菜の積み下ろしを行います。野菜がわかくさに着くと、幾人もの利用者が総出で野菜を室内へと運びます。「生活介護班」の利用者はその野菜を決められた数や重さに分け袋詰めを行います。それぞれの場面で役割を決め、真剣な中にも声を掛けあいながら楽しそうに作業をしている姿がみられます。

また、「就労継続支援B型」の利用者達は、野菜のポップを作ったりチラシ配布に取り組んだりと広報的な役割を担ってくれております。

販売場所では、準備や片付け、お客様への声かけを行なったり、慣れた手つきでレジ打ちをする利用者も増えてきております。

今年度は、毎月、芦原町会館、あいパル、福祉保健センターでの3回販売しております。売り上げが思うように伸びていない現実もありますが、ここまで継続してきたからこそ地域との結びつきも徐々に形成され地域の人々に利用者を知ってもらい良い機会にもなり、且つ利用者が地域を知るまたとない機会にもなっております。今後その部分を通じて、「誰にとっても生き易い地域生活」を模索していきたいと考えております。

(わかくさ 織茂)



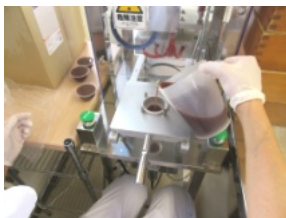
ゆうゆう

カップシーラー機
導入しました！

今年の4月に、カップシーラー機が納品されました。



今までゆうゆうで製造していた水ようかんは、冷蔵保存で10日しか保存できませんでした。



今回導入した機械を使う事で、真空状態になり、常温保管30日と長く保存ができるようになりました。

お中元やお歳暮などにも対応可能になる為、幅広い販売展開を考えております。

現在は製造の練習を職員と利用者と共に行っています。稼働が安定したら、新しい商品の案も募集する予定です。多くの商品を皆さんと考えて、地域に貢献できるように頑張りますので、是非力を貸してください！安全でおいしいものを作っていきます！

(ゆうゆう 太田)



かがやき

一歩踏み出したことが自信につながった
企業見学、実習を通して

◆初めての企業実習

かがやきは就職を目指して取り組む事業所として位置付けられます。それは就労継続支援B型の利用者も同様です。しかし、今までの就労経験がなく就職のイメージが無かったり就職に対する不安がある方もいます。

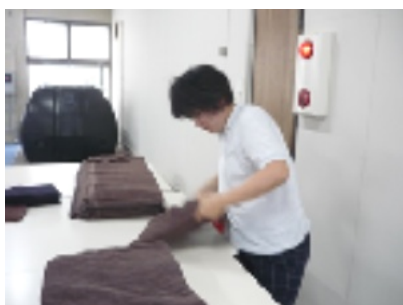
29年度末、かがやきのB型の利用者を対象にタオルたたみの作業を行っていた。企業見学に行ったメンバーの1人であるAさんは、作業に対しての意欲は高く、かがやきで行っているタオルたたみ作業もとても早くできる力があります。が、今までの就労経験・実習経験がなく自分に自信が無い様子もありました。就職のイメージを膨らむようにすることを目的にAさんにも見学に行ってもらいました。見学に行くことが決まった時も「緊張する」と話していましたが、

見学に行くことで雰囲気はわかったこと、体験で担当の方から褒められたことで自信になったよう、「実習に行ってみよう！」と実習に取り組むことになりました。見学と同じく初めての体験というところで、始まる前には同じく緊張すると話していましたが、「頑張ってくる」と前向きな言葉も出てきました。

◆一歩踏み出したことが

自信につながった

そして実習本番。環境がAさんに合っていたこと、Aさんが得意なたたみ作業だったこともあり、日を追うごとに自信が出てきたよう。実習が終わった後には、「また実習に行きたい！」と、とても意欲的になっていました。



利用者

もご家族も、かがやきから一歩出て就労を目指すことに心配のある方もいますが、

その人その人に合った環境を調整することで大きな力を発揮できるのもまた事実です。私たち支援員は一人ひとりの持っている強みや得意なことを見つけ、その力を発揮できるように支援することが求められると思います。力を持っている方はAさんだけではありません。就職を希望する方がその想いを実現できるよう引き続き支援にあたりたいと思います。

（かがやき寺内）

わかば・ひかり

おしゃべりサロン『とことこ』
障害者生活支援センターわかば

『とことこ』は、障害を持つ方たちが集まっておしゃべりしたり、ゆっくり過ごす場所です。

わかばは「障害者の相談窓口」として、生活上の困りごと等のご相談を受けています。でも、「相談」ということではなくても、誰かと話しをしたり、一緒にいるだけで、ほっとしたり安心できることって

ありませんか？そんな気軽に集える場があったらいいな、という思いから、『とことこ』を始めました。

障害のある方も、そうでない方も、誰でも過ごせる居場所として、これまでに3回実施し、のんびりとした空気の中で、他愛のない話をしたり、得意な折り紙をしたりして過ごしました。

場所と日時だけが決まっています。する事や、集まる人は決まっていません。その時にいらした方で、自由に過ごして頂きながら、集まった方たちと『とことこ』を作っていくたいと思います。まだ参加者も開催日も少ないのですが、徐々に開催を増やし、地域に根付いた居場所にしたいと思っています。

近所の寄り合い所に集まるような感覚で一度覗いてみませんか？ご興味のある方はわかばまでご連絡下さい。障害のある方だけでなく、ボランティアとしてのご参加もお待ちしております！

◆次回予定◆

日時…8月9日（木）14時～16時

*途中参加、途中退出OK

です。

場所：アトリエ創庫（上戸田1-2

19）

お問い合わせは、わかば

048-446-6785 まで。

今後、10月、2月の開催を予定しています。

（わかば猪野）



グリーングラス

健康にくらすために

戸田わかくさ会で最初のホーム運営を開始してから、8年が経過し、この間に3つのホームと2室のサテライト住居を運営し、現在23名の入居者が利用しています。8年という月日は、運営面の『変化（進展）』もありましたが、入居者にとっても年齢を重ねることでの『変化』が見られます。

◆ホームでの健康支援

グリーングラスでは、必要に応

じて、通院の付添い支援をしています。原則としては、家族での医療機関の受診をお願いしています。この8年間でご家族も高齢により通院同行が難しくなり、ヘルパー事業所や作業所等と協力し、通院同行をおこなうことが増えてきました。

突発的な風邪などによる通院もあります。入居者の中には、糖尿病や高血圧といった生活習慣病に注意しなければいけない方も増えています。毎日の血圧測定、週1回の体重測定をおこない、本人の状況を正確に把握し、医療につなげるよう努めています。医療からの指示をもとに、食事の配慮や、相談事業所と連携しながら、ヘルパーによる移動支援での運動増加へとつなげています。

◆健康と食事支援

食事支援も健康を維持するため大切な支援です。昨年度に管理栄養士に食事の内容を見てもらい、適切な栄養素が取れているかアドバイスを頂きました。おかずやデザートを増やすことで、食べることの楽しさも大切にしています。また、加齢に伴い、飲み込む力が落ちてしまっている方に対して、

とろみをつけたり、食事をかきこまないよう、小鉢でおかずを分け、スプーンで一口ごとすくって食べるようアドバイス頂き、実践しています。実際にゆっくり食べることに慣れ、むせることも少なくなっています。

今後、加齢により筋力等が衰え、今まで出来ていたことができなくなってしまうことも予測されます。入居者の方が慣れ親しんだホー



ムで生活できるよう、より一層、環境を整え、支援していきます。

（グリーングラス石川）

戸田C・みなみ

支援から学ぶこと

相談者のある方が「仕事ができることはうれしいこと」と教えてくれました。また、ある方は「働くことがこんなに大変だとは思わなかった」と話してくれました。

晴れて就職が決まった方は「自分のできることをもつとやっていきたい」と言い、再就職に向けて準備をしている方は「同じ失敗は繰り返したくない」と何度も気持ちを表現してくれました。

就労支援の場面では、一人ひとりにあった働き方を一緒に考えていきます。私が大切にしていることは、相談者の話をよく聞くことです。ただ話を聞くのではなく、どうしてそのような思いや考えになったのかということもつかっています。また、ご本人の希望や目標を実現するための具体的な方法を一緒に探していくときには、ご本人が不安や迷いとうまくつきあえるように心がけています。

冒頭で紹介した言葉には、それぞれの方が、謙虚な姿勢で仕事に向き合うことで感じた思いに加え、働くことの意味や意義を伝えてくれています。そして、支援者がどのような支援をするべきなのかということ、を、改めて考えさせてくれる言葉だ



と思います。

支援者として未熟な私は、相談者、関係機関や企業の担当者の方から多くのことを教えていただきながら、毎日取り組んでいます。福祉の専門職としてのスキルを向上させることはもちろんですが、日々の支援を振り返り、見直していくことも重要だと考えます。就労支援センターやみなみが「相談してよかったな」と少しでも思っていただけのような支援機関であり続けられるよう、自分のできることを見つけ、今後も努力していきたいと考えています。

(みなみ森田)



平成29年度 事業報告・決算報告

当法人の第70回理事会・第54回評議委員会において、平成29年度の事業報告及び決算報告が承認されました。その概要を報告いたします。

法人

法人本部は7本の柱に沿って事業を進めてきた。

1. 法人本部機能及び体制強化
事務局機能は充実したが、本部機能の充実には至らなかった。障害福祉の環境の変化に伴い、中長期的視野に立った法人運営の必要が増している。
2. 組織の見直し
法人運営上、必要な委員会、プロジェクトチーム(PT)を立ち上げてきたが、十分に機能しなかったところもあり、法人運営に欠かせない委員会、PTであり、振り返りを活かし、さらに活性化するように取組んでいく。
3. 研修体系の見直し
法人全体の研修、リーダー層の研修、外部研修などに積極的に受講し、資質向上を図った。
4. 就労継続支援B型事業所(従たる事業所)の検討
諸般の事情で検討がなされなかった。
5. 表現活動「アトリエ創庫」の開所
29年4月に開所、多様な表現活動の場のひとつとして、取組んできた。
6. GH(サテライト型)の開所
2部屋のサテライト型の部屋を確保する。新たなステップに取り組み利用者の活き活きした姿が見られる。
7. 中長期計画の見直し(平成27年度から平成31年度)
計画の前期の振り返りと後期の見直しを行った。第2期については、

30年度ないし31年度に検討する。

わかくさ

多機能事業所(生活介護・就労継続支援B型)定員は45名。新たに3名の利用者を迎え、実人数は49名であった。生産活動では、野菜販売を月4回実施し、安定した収益が得られた。ごみ袋の単価が下がり販売収入が減少したが、全体としては、受注作業も安定的に確保でき、利用者賃も前年度よりわずかに増えた。利用者への取り組みとして、工賃支給日に、買い物支援を行なうなど、その他、創作活動、機能維持・向上活動などを計画的に実施した。

ゆうゆう

就労継続支援B型事業所として定員20名(現員25名)で運営。29年度中の入退所はなかった。生産活動ではリサイクルに係る施設外の業務の受託(2社)を開始、室内の作業でも新たな業務の受託の試行を行った。一方で適性や効率などを考慮し、3社の業務を終了するなど作業の精査を行った。結果、生産活動売上は昨年比103%となり、平均工賃は34、223円(昨年比100.7%)となった。余暇として8月に暑気払い、10月に一泊旅行(那須)や12月に忘年会などを利用者が企画して行った。

かがやき

多機能型事業所の就労移行においては、7名の新規入所者があり、就

労者2名を輩出することができた。

また、就労継続支援B型においては、実習等の就労支援に取り組んだが、就労移行への移籍者や就労には至らなかった。生産活動では、新規清掃作業所を開拓し賃向上に努めた。日中活動においては、自治会活動やマイイベントの活性化を推進するため小グループに分け、職員を配置し、話し合いがスムーズに行くように取り組んだ。地域活動とのつながりを充実し交流を深めるため、地域活動イベント等に積極的に参加した。

グリーンガラス

29年度、マンション2室にてサテライト事業を開始。ホームを利用して2名が利用している。また、サテライトへの異動に伴い、空いた居室に7月から新たな入居者を迎え、サテライトの利用と合わせ、給付費の増加につなげた。個別支援では、昨年に引き続き、『個別支援計画』の希望する暮らし』を入居者の夢の実現計画と位置付け、豊かな生活支援に取り組んだ。入居者の健康支援を図るため、医療機関との連携を強化するとともに、食事の充実を図り、食べる楽しみや、嚥下能力にあわせて食事提供を行った。

わかほ

戸田市の委託を受けて相談支援事業

ひかり

戸田市指定の特定相談支援事業所として計画相談を実施した。登録者数167名、年間のサービス利用計画220件、モニタリング326件、電話相談・来所相談4,665件、訪問・同行支援1,743件、関係機関連絡調整・ケア会議1,129件。意思決定支援ガイドラインに基づく計画相談や、障害者生活支援センターわかばを始めとする委託相談支援事業所等と連携・役割分担して包括的に支援できる体制づくりに取り組んだ。

を実施した。登録者380数名、サービス利用計画及びモニタリング112件、障害支援区分認定調査12件、相談（電話・来所・訪問・同行・ケア会議等）11,073件となった。その他、在宅重度障害者訪問事業（戸田市単独事業）や埼玉県障害児等療育支援事業を実施した。地域づくりとして、「親の5年後、子どもの5年後、一緒に考えよう」勉強会（のべ77名参加）を4回実施した他、新たに居場所づくり（「とことこ」）の取り組みを始め、3回実施した。戸田市地域自立支援協議会相談支援事業所連絡会等へ積極的に参画した。

就労支援センター

登録者数265名うち、新規登録者44名、述べ就労者数145名、相談件数3,289件となった。かがやきと定期的に連携会議を行い、就労者2名の連携した支援を行った。また、市民向けに利用説明会を実施した。みなみと共同で「とだわーく通信」を2回発行、検査ツール(MWS)を利用したアセスメントを実施し、ジョブマッチングの精度を高めるように支援した。戸田市地域自立支援協議会や就労推進部会等に参加し各機関との連携を図った。

みなみ

川口市・蕨市・戸田市を対象圏域として支援を実施した。登録者555名うち新規登録者79名、就労者56名、実習件数47件、相談件数9,632件となった。就労者のための交流会として就労支援センターと共同で良暇余暇サロン3回、湧々サロン12回、湧々サロン研修会を8回、交流スペース24回を実施した。また、センター主催の情報交換会や各特別支援学校との連絡会議への参加、戸田市、川口市の地域自立支援協議会や部会等に積極的に参画した。

社会福祉法人戸田わかさ会 平成29年度決算

資金収支計算書		事業活動収支計算書		貸借対照表						
(自) 平成29年04月01日 (至) 平成30年03月31日		(自) 平成29年04月01日 (至) 平成30年03月31日		平成30年03月31日現在						
(単位: 円)		(単位: 円)		(単位: 円)						
事業活動による収支	勘定科目	決算額	勘定科目	決算額	資産の部	負債の部				
	収入	就労支援事業収入	56,413,377	就労支援事業収益	56,413,377	【流動資産】	160,518,663	【流動負債】	32,715,641	
		障害福祉サービス等事業収入	335,683,547	障害福祉サービス等事業収益	335,683,547	現金預金	93,194,640	事業未払金	24,016,744	
		経常経費寄附金収入	1,016,856	経常経費寄附金収益	1,016,856	事業未収金	60,690,299	その他の未払金	1,736,016	
		受取利息配当金収入	356,567	サービス活動収益計(1)	393,113,780	未収金	4,771,566	職員預り金	4,758,286	
		その他の収入	580,452	人件費	261,938,167	商品・製品	898,693	前受金	1,409,000	
	支出	事業活動収入計(1)	394,050,799	事業費	28,810,154	原材料	592,794	預り金	2,295	
		人件費支出	261,979,567	事務費	39,389,251	立替金	370,671	未払消費税等	793,300	
		事業費支出	28,810,154	就労支援事業費用	57,581,734	前払金	0	【固定負債】	9,734,600	
		事務費支出	39,389,251	減価償却費	10,840,426	未収消費税等	0	退職給付引当金	9,734,600	
就労支援事業支出		57,238,796	国庫補助金等特別積立金取崩額	-5,649,124	【固定資産】	432,766,563				
事業活動支出計(2)	387,417,768	サービス活動費用計(2)	392,910,608	基本財産	207,518,552	負債の部合計	42,450,241			
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	6,633,031	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	203,172	建物	197,518,552	純資産の部				
施設整備等による収支	勘定科目	決算額	勘定科目	決算額	定期預金	10,000,000	基本金	23,000,000		
	収入	施設整備等補助金収入	2,724,020	受取利息配当金収益	356,567	その他の固定資産	225,248,011	国庫補助金等特別積立金	157,759,241	
		建設仮勘定戻入収入	80,150	その他のサービス活動外収益	580,452	建物	4,154,861	その他の積立金	199,114,724	
	支出	施設整備等収入計(4)	2,804,170	サービス活動外収益計(4)	937,019	構築物	4,056,656	当期末繰越活動増減差額	170,961,020	
		固定資産取得支出	3,092,170	費用		車両運搬具	2,145,031	次期繰越活動増減差額	170,961,020	
	施設整備等支出計(5)	3,092,170	サービス活動外費用計(5)	0	器具及び備品	4,612,282	うち当期活動増減差額	1,140,187		
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-288,000	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	937,019	建物仮勘定	0				
	その他の活動による収支	勘定科目	決算額	勘定科目	決算額	権利	920,711			
		収入	積立資金取崩収入	2,373,000	経常増減差額(7)=(3)+(6)	1,140,191	退職給付引当資産	9,734,600		
			その他の活動収入計(7)	2,373,000	施設整備等補助金収益	2,724,020	積立資産	199,114,724		
支出		積立資産支出	2,331,600	特別収益計(8)	2,724,020	差入保証金	90,690			
		その他の活動支出計(8)	2,331,600	国庫補助金等特別積立金積立額	2,724,020	敷金	418,457	純資産の部合計	550,834,985	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		41,400	固定資産売却損・処分損	4	資産の部合計	593,285,226	負債及び純資産の部合計	593,285,226		
予備費支出(10)		—	特別費用計(9)	2,724,024						
当期資金収支差額合計(11)=(9)+(10)-(10)		6,386,431	特別増減差額(10)=(8)-(9)	-4						
			当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	1,140,187						
前期未支払資金残高(12)		119,925,104	前期繰越活動増減差額(12)	169,820,833						
当期末未支払資金残高(11)+(12)	126,311,535	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	170,961,020							
		基本金取崩額(14)	0							
		その他の積立金取崩額(15)	0							
		その他の積立金積立額(16)	0							
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	170,961,020							

※現況報告書、財務諸表は独立行政法人福祉医療機構の社会福祉法人の財務諸表等の電子開示システムで公開します。<<http://www.wam.go.jp/wamnet/zaihyoukaiji/pub/PUB0200000E00.do>>

表現活動

自由な感性への敬意

平成23年度、ゆうの表現活動(創作クラブ)がスタートしました。翌年、平成24年度からは、わかくさでも表現活動の取り組みが始まりました。平成23年度からスタートした戸田わかくさ会の表現活動は、この平成30年度で8年目を迎えました。この約7年の間に戸田わかくさ会で表現活動をしている人は、少しずつ増え続け、今では50名を越えます。埼玉県障害者アート企画展には延べ40名が入選し、多様な表現をたくさんの人々に観て頂く機会に恵まれました。わかくさやゆうゆうで生まれた作品が、施設から飛び出して、社会へ発信されました。

また、この7年間の軸としてきた表現活動の考え方は、技巧や作品の「出来栄」の優劣を決めて作者や作品を見るものではありません。しかしながら、社会では「作品」の評価に差が出ます。これについて、は、「作品」の魅力に気が付く人が多いか少ないかの差かもしれない。表現活動をしていく人が自由な感性で生み出した「作品」には、どれも素晴らしい

持っている自由な表現の力を、しばしば周囲の人たちが「教育」「指導」の名のもとに審判し、「だめだ」と判断したら「上手になるように」矯正し、自由な感性をねじまげて封印してしまうケースが珍しくないことです。その「教育」「指導」の結果として苦手に苦手意識を持つ人がいます。そのうに苦手意識を持った場合、その人の人生の質が向上していると言えるでしょうか。これは、障害の有無は関係ありません。戸田わかくさ会の表現活動には、「教育」する人も「指導」する人もいません。職員はただ、自由な感性に敬意を払いながら、利用者の表現にじっくりと向き合うのです。そして、その人の表層的でない、純粋な感覚を探るのです。それが私たちの目指している「支援」です。(わかくさ清水)



予 定

「花火と交流の夕べ」

目的… 戸田市内の障害者・関係者の皆さんとの交流

日付… 8月4日(土)

会場… 福祉作業所ゆうゆう
会費… 大人1100円
中学生600円
小学生以下200円

(軽食代金)

開場時間… 18時

問い合わせ… 福祉作業所ゆうゆう

☎ 048-433-4006

*雨天の場合は日曜日に行います

「戸田ふるさとまつり製品販売」

日付… 8月18日(土)

8月19日(日)

時間… 12時~17時

会場… 戸田競艇場

とだ共同受注センターとして参加し、ゆうゆうのどら焼き販売等を行います。

「戸田わかくさ会公開研修」

『だれもが幸せに暮らせるまちづくり!』障害のある仲間が豊かに生きていくために

日時… 9月1日(土) 10時~12時

会場… 戸田市文化会館

参加費… 無料

問い合わせ… 戸田わかくさ会

研修担当 織茂

☎ 048-2229-7421

(わかくさ)

(法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、指定特定相談支援事業所ひかり



(ホームページはこちら)

<http://www.wakakusa-kai.com/>

facebookもやっています

【 発 行 】

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 戸田市新曽1522-1

TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298

(編集後記)

今年は想像以上に早く6月に梅雨が明けてしまい、暑い夏がやって来ましたね。戸田わかくさ会では、夏、秋に予定されているイベントに向けて準備が始まっております。次月号も様々な情報をお届けしていききたいと思います。これから更に暑い日が続きますので、体調管理に気を付けながらお過ごしください。

(永井)